

一般入試前期A日程2日目

数 学

I

■出題のねらい

数学Ⅰ，数学Ⅱの内容から，3次方程式と虚数解，指数関数，対数関数，領域と最大値・最小値，データの分析について，基礎的な計算力を問いました。

■採点講評

全体的に，5割程度の得点率の人が多く，満点は数えるほどしかいませんでした。

- (1) ア はよくできていましたが， -1 も答えとする人が一定数いました。「 k の値によらない」という条件だけでなく，与えられた方程式が満たされるか確認することが必要です。
- (2) ウ，エ ともによくできていましたが，ウ では $a > -2$ の条件に気がつかず， -3 も答えとしている人が一定数いました。また，エ では， $b > c$ であるにもかかわらず，負の値を答える人も一定数いました。
- (3) 比較的難しかったようです。最小値がオ，最大値がカ であるにもかかわらず，オ $>$ カ と解答する人がいました。
- (4) 分散キ はよく求められていましたが，共分散ク を正答する人は多くありませんでした。

II

■出題のねらい

ベクトルと図形，群数列に関して標準的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) ベクトルの長さ（辺の長さ）を問う設問と面積を問う設問は正解率が高かったものの，三角形の性質を用いる問題では正答率が低くなりました。
- (2) 数列の規則性を見つける設問については解けていましたが，最後の S_n を問う設問については，問題で示された変数を用いていない答案が目立ちました。

III

■出題のねらい

- (1) 対数関数を含む関数について、微積分の標準的な理解度と計算力を問いました。
- (2) 合成関数について、計算力と理解度を問いました。

■採点講評

- (1) (i) よくできていました。
(ii) よくできていましたが、計算ミスが散見されました。
- (2) (i) $f(x)$ の計算はよくできていました。一方で $h(x)$ を求める問いでは、計算ミスだけでなく、合成関数についての理解が弱いように感じました。
(iii) 加法定理を利用します。正答率は低かったです。

IV

■出題のねらい

指数関数を含む関数を題材にして、微積分の標準的な理解度と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) よくできていましたが、計算ミスもよく見られました。
- (3) 方針なく計算し、最後まで解けない答案が多くありました。微分と積分の関係を使って上手に計算しましょう。
- (4) (3)まで正答できた人の多くは、よくできていました。

V

■出題のねらい

三角関数および確率を題材に、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) $\tan 2\theta$ に関する2倍角の公式を覚えていない人が多くいました。 \sin , \cos だけでなく \tan の公式についても復習しておきましょう。また、相加平均と相乗平均の大小関係を用いた最小値の求め方が分かっていない人が多くいました。微分を使った最小値の求め方だけでなく、様々な最大値・最小値の求め方にも慣れておきましょう。
- (2) 基本的な確率を求める問題です。よくできていました。

VI

■出題のねらい

2次関数の定積分と微分法を問う問題で、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 不定積分はよくできていました。 $f(a-1)$ の値は、わざわざ定積分の上端・下端を入れ替えて計算し、その際マイナスをつけ忘れている人が多く見られました。
- (2) 概ねできていました。3次の式の計算間違いが見られました。数Ⅲを学んでいる場合、合成関数の微分で計算しても構いません。計算間違いを少なくする工夫をしましょう。
- (3) (2)が正答できた人はこの問題も概ねできていました。極値の計算も $(x-a)$ を展開せずに計算した方が楽になります。
- (4) (1)より $f(a-1)=m$ なので、厳密には $a-1 \leq 0$ を確認する必要があります。今回は区間の幅 $3=(a+2)-(a-1)$ なので $a+2 \leq 3$ と同じ条件になります。区間の幅が3より広い場合も考えてみましょう。

一般入試前期A日程2日目

物 理

I

■出題のねらい

力学の基本事項の理解度をみるために、等加速度直線運動や円運動、慣性力などについて問いました。次に、力学的エネルギー保存の法則や運動量保存の法則を用いて運動を調べられるかを問いました。また、工学で重要になる数値的な計算を正確にできるかをみるとともに、直感的な洞察力が備わっているかにも注目しました。

■採点講評

(1) は等速円運動に関する基本的な問題です。等速円運動を特徴づける物理量には半径、速度、角速度、周期、角振動数などがあり、それぞれの意味と関係を理解しておけば容易に解くことができます。しかし、問1、問2を間違えている受験者も少なからずいました。基本事項をしっかりと理解していないと応用問題は解けません。特に、物理が苦手という人はひとつひとつ積み上げて学習してください。問4は力の合成の問題で、1つの力と合力が与えられ、もう1つの力を作図するものです。単に2つの力の合力を問う問題ではなかったため、難しかったようです。正答率は5%を下回りました。

(2) はループがついたジェットコースターを題材にして、等加速度運動、摩擦と仕事、力学的エネルギー保存の法則、垂直抗力、慣性力など、これも力学の様々な基本的事項について問いました。問6の仕事の問題では摩擦力の向きと運動の向きが逆になっています。したがって「内積」を理解していれば、解答にはマイナスがつきますが、きちんと正答できた受験者は10%程度でした。問8はレールから受ける力が垂直抗力になります。通常では面から「押される」力が垂直抗力となる場合が多く、受験者はそのような問題に慣れていると思います。しかし、この問題では車両がレールにぶら下がった状態になるので、レールからは「引っ張る」力がはたらいています。これが垂直抗力となります。設定をうまく読み取れないと解答できませんので、状況をイメージしながら解いてください。問9は数値を計算する問題です。計算間違いをして、125倍や1.25倍と答えている受験者も多かったです。時間制限があり、慌ててしまうかもしれませんが、落ち着いて計算してください。

(3) は可動式のループ台についての問題です。設定は少しややこしいですが、よく読めば車両とループ台の弾性衝突の問題であることがわかります。問10は運動量保存の法則、問11と12はそれに加えて力学的エネルギー保存の法則を用いると解くことができます。また、問12はすべてを計算しなくても、状況をイメージして直感的に正答を出すこともできます。

いずれも、問題を注意深く読めば正答にたどり着くことができます。公式をそのまま当てはめるのではなく、基本的なことを理解して自分で考える学習をしてください。

II

■出題のねらい

2枚の極板からなるコンデンサーを題材として、電場（電界）、電位、静電エネルギーおよび電極間にはたらく力など電磁気分野における基本的内容の理解度をみました。

■採点講評

全体としての出来はよくありませんでした。前半部分（1）（2）での問題は、コンデンサーに関する基本事項ですので、すべて正答してほしいものばかりです。後半も文章に沿って正しく計算できれば、十分正答が得られるはずです。

問1、問2はともによくできていました。[ア]では、 $\frac{1}{2}v\Delta q$ という誤答が多く見受けられました。コンデンサーに蓄えられる静電エネルギーの増加分が、幅 Δq 、高さ v の長方形の面積に相当するとして求めればよいだけです。[イ]はよくできていました。問3は QV 、 $\frac{1}{2}QV$ といった値のみを記載している誤答が目立ちました。ここでは、各面積がどのような物理量に相当するかを具体的に問うている問題です。教科書等でしっかり内容を把握しておいてください。[ウ]の出来はよくありませんでした。 Q が一定の下で、極板間距離をゆっくり広げたときのコンデンサーに蓄えられる静電エネルギーの増加分を計算するものです。これは頻出問題なので、必ずできるようにしておきましょう。[エ]は[ウ]と外力が極板Aにした仕事を関連づけて考えれば、正答がおのずと得られるはずです。[オ]の正答率はかなり低かったのですが、その意味はぜひ理解してほしい内容です。特に、コンデンサーの極板間に生じる電場のうち、半分は極板B上の電荷がつくる電場が寄与している点が重要です。もちろん残りの半分は極板A上の電荷がつくる電場の寄与によるものです。

電磁気分野は抽象的で理解するのが難しいかも知れませんが、暗記によるのではなく、日頃より教科書等で物理的内容を具体的なイメージをもって理解するよう努めてください。

III

■出題のねらい

対象は熱力学で、気体分子運動論に基づいて理想気体が示す性質を問いました。力積、圧力、運動エネルギー、内部エネルギーなどを順次求めていき、最終的に断熱膨張をする気体の性質を理解します。力学的な要素も入っています。前半は基本問題で、後半が発展です。式の展開能力を問う問題や記述式の問題も含まれています。

■採点講評

(1) は気体分子運動論の導入となる基本問題で、教科書に記載されている内容を踏襲しています。最初の「ア」は力積の計算ですが、誤答では2倍が抜けているものやマイナスが付いているものが多かったです。問2では、変数として v を指定しているにもかかわらず、 v_x を用いる解答が見受けられました。問3では気体の内部エネルギーを本文中の説明に沿って求めますが、その結果はよく知られた公式になります。解答では $3/2$ が逆数になっているものや、アボガドロ定数 N_A を含める誤答が多くありました。

(2) は、(1) で示してきた気体の性質を利用して断熱膨張を論ずる発展問題です。この設問の出来は全体的によくありませんでした。「オ」は反発係数の定義を用いて解く問題ですが、誤答として2倍が抜けているものが多かったです。「カ」と「キ」は数式の展開能力を問う問題です。直前の文章に、動いているピストンに衝突した後の分子は減速すると説明があります。それを理解していると解答にはマイナスの符号がつくことがわかります。最後の問4は、この大問の締めくくりになっています。膨張する気体の温度はどのように変化するのかという定性的な現象を問うているので、新しい数式を導く必要はありません。文章全体をよく読み、これまで順に提示されてきた気体の性質を総合的に理解すると答えられます。その事に気づいた解答は良かったのですが、そうではなく、体積が増えるために(状態方程式から)単純に温度が上がると答える解答が見受けられました。熱力学の第1法則(熱量、内部エネルギー、仕事の関係)を用いても答えられます。

熱力学は大学入試で頻繁に扱われる題材であり、大学においても工学の基礎を成します。熱力学では温度、体積、圧力、エネルギーなどの様々な物理量が絡み合い、かつ、それらの関係は設定された条件によって異なります。受験者の皆さんはより多くの演習問題を解いて慣れてください。

一般入試前期A日程2日目

化学

I

■出題のねらい

金属結晶およびイオン結晶の原子配列について取り上げ、基本的な概念を問いました。正解率は70%とかなり良くできていました。

■採点講評

金属結晶には大きく分けて面心立方格子、体心立方格子および六方最密充填格子の3種類に分類され、金属によって結晶構造が異なります。例えば、金の結晶は面心立方格子構造を取ります。結晶格子内の金属の個数の数え方、配位数については、確実に解答できるようにしておいてください。(3)の解答には Cl^- と同じ電子配置の希ガス原子の元素記号を要求しましたが、「アルゴン」との誤答が目立ちました。問題をよく読んでください。(4)についてですが、面心立方格子の面において、金属同士が接近している図を作図してから問題を解いてください。頻出問題ですので必ず正答できるように勉強しておいてください。なお、解答の際には、有効数字2桁にも注意して解答してください。(6)は CsCl の結晶について問う問題でした。3)体心立方格子の4つの頂点を通る面で切った図を作図して問題を解いてください。その際に、 Cl^- の半径を利用して、 Cs^+ の半径を求めてください。 Cl^- と Cs^+ の半径は異なります。4)単位格子内に1個の CsCl が含まれています。1molの CsCl の式量は168ですので、アボガドロ数を用いて、1個の CsCl の質量を求めます。次に、格子の体積を求めます。密度は、質量を体積で割ると求めることができます。計算ミスがないように、与えられた値を用いて効率よく計算をしてください。大学入試ではよく出題されますので、勉強しておいてください。

II

■出題のねらい

金属イオンの系統分析を題材に、化学の基礎となる化学式、化学反応式、錯イオンおよび工業的な化合物の製法に関する基本的な知識の理解度を問いました。

■採点講評

全体的に正答率は低かったです。色々な金属イオンの性質を理解し、系統的に分析することが難しかったようです。実際に実験をしていなくても、金属イオンの系統分析については教科書にカラー写真を使用し、沈殿の色等もわかりやすく記載されています。

(1)～(3)化合物や錯イオンを化学式で正確に書けていない答案が予想以上に多く見られました。

- (4) 文章で書かれた内容を化学反応式で正確に書けるようにしてください。この問題は非常によくできていました。
- (5) 「ソルベール法」「ハーバー・ボッシュ法」あるいは「アンモニアソーダ法」など間違った製法名を答えている答案が多数見られました。工業化学における重要な製法は、名称とともに正確にしっかり理解しておきましょう。
- (6) 現象とその名称について正確に理解してください。
- (7) 溶解度積について単位を含めて正確に計算できるようにしてください。
- (8) 理由を簡潔に答えられるようにしてください。短い文章でいろいろな事象を的確に説明することは難しいことです。日頃から文章力を磨くように努力してください。また、文字を丁寧に書くことを心がけてください。
- (9) 多くの化合物や沈殿の色を正確に理解することは難しいかもしれませんが、特徴的な沈殿の色は理解してください。
- (10) 錯イオンの名称を正確に記載することが難しかったようで、誤りが多く見られました。命名法に基づき代表的な錯イオンの名称を記載できるようにしてください。ここでも、文字を丁寧に書くことを心がけてください。

III

■出題のねらい

有機化学の分野から、脂肪族炭化水素に関する問題を出題しました。脂肪族炭化水素の構造、名称、性質、反応などに関連した有機化学の基礎学力を確認しました。

■採点講評

(1)～(4)は飽和炭化水素であるアルカンに関して出題しました。

(1)はメタンに関する問題でした。飽和炭化水素のうち、メタン CH_4 (沸点 -161°C)は天然ガスの主成分として多量に算出される可燃性ガスであり、都市ガスとして供給されています。LPガスの主成分であるプロパン C_3H_8 (沸点 -42°C)やブタン C_4H_{10} (沸点 -1°C)との利用のされ方の違いについて理解しましょう。プロパンとする誤答が多く見られました。

(2)はブタン C_4H_{10} の構造異性体の名称を問う問題であり、比較的高い正答率でした。

(3)は直鎖状アルカンの沸点に関する問題で、分子量が大きいものほど沸点が高くなる傾向を示すことは問題にも記載しました。分子の名称と構造を知っていれば容易に正答できる問題であり、正答率はかなり高い結果となりました。

(4)はペンタン C_5H_{12} の3種類の構造異性体について、構造と名称および沸点に関して問う問題でした。直鎖状のアルカンとは異なり、枝分かれ構造をもつアルカンの沸点は枝分かれ

の数が増すほど沸点が低くなる傾向を示すことは問題文にも記載しました。問題を正しく読めればやさしい設問であり、正答率も相応に高い結果となりました。

(5) は分子間力に関する知識を問う問題でした。ファンデルワールス力という名称の習得度は高く、極めて高い正答率となりました。

(6) はアルケンの付加反応に関して問う問題でした。化学反応式を構造式ではなく分子式で記載した答案是、原子の結合様式がわからないので望ましくありませんが、可としました。臭素分子 Br_2 (赤褐色) のアルケンに対する付加反応では、臭素の色が脱色するため、色の変化を利用して不飽和結合の確認ができることを理解しておきましょう。

(7) ~ (9) はアセチレンの製法と反応について問う問題でした。

(7) は炭化カルシウム CaC_2 に水を加えるとアセチレンと水酸化カルシウム $\text{Ca}(\text{OH})_2$ が生成する反応でした。係数の間違いに気をつけましょう。

(8) はアンモニア性硝酸銀溶液にアセチレンを通じると銀アセチリドの白色沈殿が生じる反応を出題しました。

(9) はアセチレンの付加重合によりポリアセチレンが生成する反応について出題しました。ポリアセチレンにハロゲンを加えると金属に近い電気伝導性を示すことは日本の白川英樹先生らによって発見され、いわゆる導電性高分子の発見として2000年にノーベル化学賞を受賞されています。

総じて、教科書の内容に準じたやさしい問題だったと思います。普段から元素記号、構造式や化学反応式を正確に書くことを心がけてください。

生 物

I

■出題のねらい

(1) では哺乳類の筋肉の構造, 筋収縮のしくみ, エネルギー源と他の効果器について問いました。(2) では哺乳類の神経系の構造, 反射における運動神経, 感覚神経の興奮伝導と伝達について問いました。

■採点講評

正答率は48%でした。以下, 正答率が低かった問題を中心に解説します。

(1) の1) は筋肉の構造と機能に関する穴埋め問題です。この中で「活動電位が [7] に生ずると, その末端からアセチルコリン…」の正解は①運動神経なのですが, ⑩シナプス間隙という誤答が多く見られました。シナプス間隙には活動電位は発生しません。「骨格筋は, 意志によって制御することができる [10] 神経系によって…」の正解は⑱体性なのですが, ⑤自律という誤答がとてども多く見られました。これは意外な結果です。体性神経系という言葉が自律神経系と比べて日常生活であまり一般的でないため, このような結果になったと推測しています。3) は筋原線維の構造に関する問題で, 正解は③と⑤です。誤答として①, ②, ④がほぼ同数見られました。太いフィラメントがミオシン, 細いフィラメントがアクチンです。また筋小胞体は筋原線維を取り囲んでいます。筋肉の内部構造については教科書に詳細な図や写真が掲載されています。5) は筋肉のエネルギー源についての問題で, 正解は③です。一部の教科書でクレアチンリン酸についての記載がないことが, 正答率の低い原因と考えます。6) は筋肉以外の効果器について誤っている記述を選ぶ問題です。正解は②と⑤です。繊毛や鞭毛の運動は微小管によります。また, シビレエイの電気板は筋肉が変化してできたものです。

(2) の前半は神経の伝導速度と, シナプスでの伝達時間を計算する問題です。この中で3) シナプスでの伝達時間の計算の正答率が低かったです。Bを刺激して筋収縮まで18.0ミリ秒, Dを刺激して筋収縮まで12.5ミリ秒です。これらの時間差5.5ミリ秒がBからDまで興奮が伝わる時間です。この時間はBから軸索末端, シナプス伝達, 運動神経の細胞体からDまでの時間を足したものです。Bから軸索末端までの20cmは伝導速度が100m/秒で2ミリ秒, 運動神経の細胞体からDまでの20cmは伝導速度が80m/秒で2.5ミリ秒かかります。これらを5.5ミリ秒から差し引いた①1ミリ秒が正解です。6) は神経系の構造について誤った記述を選ぶ問題です。正解は②と③です。脊椎動物にも無髄神経繊維はあります。脊髄で神経繊維が束になっているのは白質です。

II

■出題のねらい

(1) では生殖と発生について問いました。配偶子形成から初期発生まで幅広く理解の確認をしています。(2) では実験を行う際の仮説の立て方や検証方法について問いました。科学的なものの見方を確認しています。また、生物間相互作用についての知識を問いました。(3) では原核生物と真核生物の細胞構造についての基礎的知識と、3ドメイン説、共生説など関連の基礎的知識を問いました。

■採点講評

(1) の正答率は63%でした。1) は生殖に関する穴埋め問題です。この中でやや多かった誤答は ①植物極と ②動物極を逆に答えたものでした。2) は遺伝的に多様な次世代を生み出すことに関する記述を2つ選ぶ問題です。正答率は低かったです。正解は①と⑤ですが、誤答として②, ④, ⑥が多くみられました。転座は染色体突然変異であり、遺伝子突然変異とは別の現象です。接合は有性生殖です。また雌雄同体でも配偶子は減数分裂のできることで、自家受精しても遺伝的に親とは異なる個体が生まれます。3) は減数分裂について誤った記述を2つ選ぶ問題です。正解は①と⑤です。第二分裂終期には第一分裂前に比べて細胞1個あたりの染色体数が半分になります。また、第一分裂前期には染色体が複製されているので、DNA量は通常の2倍あります。それと比較すると第二分裂後に形成される娘細胞のDNA量は4分の1になります。4) は染色体数が n と $3n$ の細胞を選ぶ問題です。 n は⑤シダ植物の胞子が正解です。誤答として③赤血球が多くみられましたが、赤血球には核がないので染色体もありません。 $3n$ は②カキの胚乳の細胞です。誤答として⑥タマネギの根端の細胞が多くみられましたが、そこは体細胞($2n$)の分裂が盛んな場所です。

(2) の1) は適切な仮説を問う問題で、正答率は80%と高いものでした。2) は適切な実験計画を問う問題で、これも正答率は75%ありました。3) の対照実験についても高い95%の正答率でした。1) ~ 3) は論理的な考え方ができれば予備知識はなくても答えられる問題でした。しかし、4) は生物相互作用についての専門用語を覚えていないと答えられない問題で、正答率は低くなっています。(3) の1) は原核生物、真核生物についての基本的な知識を問う穴埋め問題です。この中で、「遺伝情報を伝える がある。」の正解は⑤染色体なのですが、小胞体、プライマー、プロモーターを選択した誤答が少なからずありました。2) は3ドメイン説に関する問題で正解は④なのですが、⑤を選んだ誤答が多くみられました。硫黄細菌は細菌ドメインに属します。3) はミトコンドリアに関する問題で、正解は②です。誤答として④, ⑤が多くみられました。解糖系はミトコンドリアにはありません。呼吸反応で利用する酸素は水になります。4) は葉緑体とミトコンドリアに共通する反応を問う問題で、正解は④です。①は解糖系で両者に存在しません。②, ③は葉緑体独自の反応で、⑤はミトコンドリア独自の反応です。

一般入試前期A日程2日目

英語

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する力を問う問題です。2人のやりとりの流れを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取ります。仕事に遅刻しそうな2人が、車の中でそれぞれの上司について話していますが、どのような人物なのでしょう。注意深く読んで正確に把握しましょう。

■採点講評

普段の会話には、様々な話題が入れかわり立ちかわり出てきます。この問題では **Clark** と **Diana** それぞれの部署の人間模様から、車の渋滞の原因について急に話題が切り替わります。**5** の正答率が思わしくありませんでしたから、**Diana** の上司のちょっとした習慣を読み落とした人も少なくなかったようです。英問英答問題では、同じ内容が本文とは違った単語を用いて言いかえられますから、さらに注意が必要です。

II

■出題のねらい

ある市の主催する絵画コンクールの募集案内ポスターを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。コンクールに出品するための条件や、入賞した場合の副賞の内容や注意すべき点など、情報の多さに惑わされずに必要な情報を素早く見つけ出しましょう。

■採点講評

7 と **9** の正答率が低かったのですが、**7** では“hidden”という単語に惑わされて、その後続く単語が選択肢の英文と本文とで異なっていることを見逃してしまった人が多かったようです。また **9** では“voucher”の前の“domestic”という語を見落として、③を選んでしまった人が多かったようです。本文と同じ単語が使われている選択肢にはくれぐれも注意しましょう。

III

■出題のねらい

近年世界的に増加する海外旅行者のニーズと、日本の観光産業の現状とのズレに関する英文です。語彙や表現に関する基礎的な知識に加え、構文を正しく読み解く力が要求されます。また、各国の訪問者数を示したグラフのほか、文中には大きな数やパーセント等、数に関する表現が多く出てきますので、内容読解の問題ではこれらを正確に把握して正答を導く必要があるでしょう。

■採点講評

メディアでもよく取り上げられるテーマですから、全体的として英文の内容を理解できている人が多かったようでした。その中で [12] の正答率は思わしくありませんでしたが、 [12] を含む文には “not” が使われていませんから、④の “no longer” が正解となります。基本的な英文法もしっかり復習しておきましょう。

IV

■出題のねらい

2017年度グッドデザイン賞を受賞したシカ踏切に関する英文で、設置前後での事故件数の変化、ある近畿日本鉄道の従業員によって考案されるに至った経緯、その仕組み、受賞時の審査員の評価などを正確に把握できるかを問うています。いくつか難易度の高い語彙や構文が出てきますが、前後の文章との内容的なつながりをしっかりと意識しながら読むことで、正しい答えにたどり着けるはずです。細かい語彙まで理解できているかも問題としているので、細部も読み飛ばさずに英文を読むようにしましょう。

■採点講評

わかりやすいイラストも示されていたから、全体としての正答率はまずまずでした。ただ [22] や [24] など、細部まできちんと読んで理解しなければならない問題では正答率がおよそ35%と低かったです。このタイプの問題では、選択肢に使用されている単語を手がかりに、本文の該当箇所をじっくり読むことが大切です。また数字にも注意が必要です。たとえば(8)の正解は③と④ですが、間違って②や⑧を選んでしまった人が少なくありませんでした。数字が含まれた文では、それが何を表す数字なのか、本文と選択肢で異なっていないかなど慎重に確認してから答えを選ぶように心がけましょう。

V

■出題のねらい

日本の包丁の切れ味に魅せられた外国人が、その魅力を広めるために活動している様々なエピソードをまとめた英文です。(1)は **so...that** の構文や関係代名詞、あるいは **how** を使用した名詞節など、基本的な構文力と文法力を問う問題です。ただし、文脈を考慮しなければ正解にはたどりつけないので注意が必要です。(2)は英文全体の内容が把握できているかどうかを問う問題です。

■採点講評

[27] と [29] の正答率が25%未満でしたから、並べ替えに苦戦した人が多かったようです。[27] では不必要なものとして①の **“him”** を選んでしまった人が多かったのですが、ここでは **so...that** の構文を使って **“so impressed him that~”** と組み立てなければなりません。また [29] の正解は③ですが、間違っって②を選んだ人が多かったです。単語は決して難しいものではありませんから、基本的な構文をもう一度しっかり確認しておきましょう。

一般入試前期A日程2日目

国語

I

出典 『漢文脈と近代日本』（齋藤希史）角川文庫

日本における近世後期の漢文および漢文学習について説明された文章です。日本と中国における漢文の位置付けを丁寧に読み解くことが大切です。

問1【漢字の書き取り】（解答番号は①～⑥）

a綿々 b傍流 c風潮 d観念 e波及 f継承 がそれぞれ正解です。「傍流」があまりできていませんでした。完全正答率は3.9%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑦・⑧）

Ⅰは⑤「近世」、Ⅱは⑤「基底」が入ります。Ⅰは第一段落の内容から導けます。正答率は、Ⅰが86%、Ⅱが88%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑨）

アの前の三段落分の内容から①「昌平黻を基点とする」が導けます。正答率は63%でした。

問4【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑩）

イの前後の内容から①「解釈の統一」が導けます。特に、イに続く文章で「つまり」と言い換えられている部分がヒントです。正答率は33%でした。

問5【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑪）

ウの直前から④「『学ぶ』階層」が導けます。正答率は62%でした。

問6【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑫）

傍線部Aの直後から正答⑥が導けます。「端的に言えば…からです」という表現がヒントです。正答率は87%でした。

問7【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑬）

傍線部Bに続く三段落分の内容から正答④が導けます。正答率は87%でした。

問8【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑭）

傍線部Cの前後から正答④が導けます。正答率は91%でした。

問9【文脈把握・内容理解】（解答番号は⑮）

傍線部Dを含む段落の内容から正答⑤が導けます。正答率は95%でした。

問10【内容理解による小見出し選択】（解答番号は⑯）

正解は②です。空欄甲で始まる段落の冒頭と末尾で「漢文の素養」、「素養としての漢文」と繰り返されています。正答率は84%でした。

問11【内容理解による小見出し選択】（解答番号は⑰）

正解は④です。空欄乙で始まる段落の末尾に「士人意識への志向」とあります。正答率は58%でした。

問12【内容合致】（解答番号は **18**）

正解は①・④です。⑦を選ぶ誤答が多く見られましたが、「知識として身につけておくべき藝事に近い位置づけ」は平安時代のことです。完全正答率は30%でした。

II

出典 『桜が創った「日本」』（佐藤俊樹）岩波新書

ソメイヨシノはすべてクローンであるという話題から、花見の変遷と日本人の花見についての話題へと展開します。ソメイヨシノをクローンであるとする理解に「微妙なずれ」があること、花見が「一本桜から群桜へ」変化する状況を把握することが鍵になります。

問1【漢字の書き取り・読み】（解答番号は **19**～**24**）

a複製 b総称 cけいだい d近隣 e希（稀）少 f旧暦

全問正答率は18.4%でした。「けいだい」を「きょうない」と読む誤りや、「旧暦」を「旧歴」と書く誤りが目立ちました。

問2【空欄補充・文脈把握】（解答番号は **25**～**27**）

I の直前にある「人間に見立てている」がヒントです。正解は①です。正答率は76%でした。**II** にはクローンに受け継がれるべきものが入ります。正解は⑤です。正答率は84%でした。**III** の1行前で「時空」という一体化した概念の大切さを示しています。正解は⑥です。正答率は92%でした。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は **28**）

桜の種類によって開花期に差があることは『江戸名所花暦』に記され、彼岸桜 → 一重桜 → 八重桜と変遷し、最後は葉桜になります。**X** は、桜の開花期を過ぎても人が群集するとの文脈ですから、開花の変遷の最後の段階に対応します。**Y** と **Z** は、それぞれ「ひとえ桜」より十日ばかり早く咲く桜と、遅く咲く桜になります。正解は⑤です。正答率は36%でした。

問4【空欄補充・文脈把握と内容理解】（解答番号は **29**）

開花期の賑わいを「争奪戦」と喩える文脈を理解することが重要です。正解は⑤です。正答率は59%でした。

問5【内容把握】（解答番号は **30**）

何と何との間にどのような「微妙なずれがある」のか、前後の文章を丁寧に読み取り、「実生」の意味を正確に把握することが大切です。正解は③です。正答率は54%でした。

問6【文脈理解・内容把握】（解答番号は **31**）

傍線部は直前の「その辺も桜らしいといえば桜らしい。」という表現の置き換えです。正解は①です。正答率は38%でした。

問7【文脈理解・内容把握】（解答番号は **32**）

傍線部直前の「満開時に並木の下」がヒントです。正解は①です。正答率は100%でした。

問8【文脈理解・内容把握】（解答番号は **33**）

ソメイヨシノ以外の桜で開花宣言すると、宣言自体が「まぬけなものになってしまう」という文脈が込められます。正解は⑤です。正答率は92%でした。

問9【文脈理解・内容把握】（解答番号は **34**）

傍線部の「もう一つ」は前の段落を受ける記述であるので、前の段落の内容がヒントです。正解は②です。正答率は80%でした。

問10【小見出し選択】（解答番号は **35**）

ソメイヨシノの特性を正確に理解することがポイントです。正解は④です。正答率は43%でした。

問11【小見出し選択】（解答番号は **36**）

ソメイヨシノを中心とする花見の地理的な話題が、それ以前の話題へと展開する内容であることを把握する必要があります。正解は②です。正答率は30%でした。

問12【内容合致】（解答番号は **37**・**38**）

正解は⑦と⑧です。①「一本ではなかったことがわかる」と断定的である点、②「ソメイヨシノが遺伝子工学の成果であること」、③「全国で咲くタイミングは～共有できる」、④「そこに～育てたものである」、⑤「地図上の～システム」、⑥「戦時中～もどった」、⑨「吉原～同じ趣向である」、以上が誤りです。1問正答率は62%で、完全正答率は6.6%でした。